令和6年度

札幌市歯科口腔保健推進会議

議 事 録

日 時：2025年2月18日（火）午後6時30分開会
場 所：札幌市役所本庁舎 12階 1・2号会議室

1. 開 会

○事務局

定刻になりましたので、ただいまから令和6年度札幌市歯科口腔保健推進会議を開会させていただきます。

本日のご出席に際しまして、ご多忙、また、遅い時間にもかかわらず、札幌市役所まで足をお運びいただきまして、ありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

本日、委員長による議事進行までの間、進行を務めさせていただきます食育・健康管理担当課長の中澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日の委員の出席状況ですが、13名の委員の皆様にご出席いただいております。

上埜委員と手嶋委員からご欠席とご連絡をいただいております。

また、本日の会議時間はおおむね2時間を予定しております。長い時間ではございますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、本日の会議の内容は、市民に公開することを原則としておりますので、会議終了後には議事録を作成の上、札幌市のホームページ上で公表したいと考えております。

つきましては、会議内容を録音させていただきますので、あらかじめご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。

それでは、机上の配付物を確認させていただきます。

上から順番に、会議次第、委員名簿、委員名簿とは別に本日のご出席者の一覧、議題1用の資料として、ホチキスで留めております資料1の第2次札幌市生涯歯科口腔保健推進計画事業報告、議題2用の資料として、こちらもホチキスで留めております資料2の主な事業の今後の予定・方向性、議題3用の資料として、資料3の札幌市歯科口腔保健推進会議「摂食嚥下障害対策専門部会」の設置について（案）となっております。

不足する資料がございましたらお申しつけください。

2. 挨拶

○事務局

それでは、お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、開会に当たりまして、歯科保健担当部長の秋野から、一言、ご挨拶を申し上げます。

○秋野歯科保健担当部長

皆様、お疲れさまです。

札幌市保健福祉局で歯科保健担当部長をしております秋野でございます。

本日は、お忙しい中を本会議にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本歯科口腔保健推進会議でございますが、ご承知のとおり、皆様の机上にもございます

昨年度、札幌市生涯歯科口腔保健推進計画の取りまとめを委員の皆様にしていただきまして、誠にありがとうございました。

当計画に基づきまして、新たな事業、新たな取組が今年度から幾つかスタートしております。

具体的にスタートした事業といたしましては、保育所、幼稚園におけるフッ化物洗口事業の拡充と申しますか、札幌市としての事業化、また、小学校におけるフッ化物洗口のモデル事業、生涯を通じた歯科健診の推進ということで、これは来年度からになる見込みですが、40歳、50歳、60歳、70歳の方を対象としているさっぽろ市歯周病検診の対象年齢の拡大に向けた予算要求を行っているところでございます。

また、そのほか、高齢者につきましても、高齢者のオーラルフレイル対策の推進ということで、札幌歯科医師会、北海道歯科衛生士会、北海道栄養士会の皆様のご協力をいただきながら、オーラルフレイルに関する新たな事業を今年度からスタートしております。

また、障がい者に対する取組につきましても、計画とほぼ同時にスタートしているような事業でございますが、施設入所者に対する歯科健診事業、あるいは、歯科保健指導、健康教育等の事業も充実をしてきたところでございます。

これらの事業は条例と計画に基づいて、ここ数年で立ち上げた新しい事業が多くございまして、本日は、それらの事業の進捗状況、実績等をご報告させていただきます。

新しい事業を立ち上げたという内容が多いものですから、私どももトライ・アンド・エラーでやっているような状況でございます。委員の皆様、それぞれの各団体、専門的なお立場から、主な事業に対しまして、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと考えております。

いろいろと至らぬ点もございまして、札幌市の歯科口腔保健推進事業を充実してまいりたいと考えておりますので、引き続き、委員の皆様のご協力をよろしく申し上げます。

簡単ではございますが、これで挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 委員紹介

○事務局

続きまして、会議次第3により、委員の皆様をご紹介させていただきます。

お手元の委員名簿に沿いまして、順にお名前を読み上げさせていただきます。

お時間の都合により、その場でご起立いただきまして、一礼のご対応をお願いいたします。

初めに、本会議の委員長をご紹介いたします。

北海道医療大学歯学部保健衛生学分野教授の三浦宏子委員長でございます。

続きまして、副委員長をご紹介いたします。

札幌歯科医師会副会長の高橋修史副委員長でございます。

続きまして、札幌認知症の人と家族の会会長の犬野孝委員でございます。
札幌歯科技工士会会長の小野寺秀樹委員でございます。
札幌市PTA協議会監事の小戸田友香委員でございます。
札幌市知的障がい者福祉協会北の沢デイセンター施設長の木間洋文委員でございます。
札幌市小学校長会札幌市立美香保小学校校長の高屋敷優委員でございます。
札幌歯科医師会理事の當山悟委員でございます。
札幌市介護支援専門員連絡協議会会長の長崎亮一委員でございます。
北海道自閉症協会札幌分会（札幌ポプラ会）会長の松岡円委員でございます。
北海道歯科衛生士会監事の武藤智美委員でございます。
北海道大学大学院歯学研究院口腔機能学分野小児・障害者歯科学教室教授の八若保孝委員でございます。

北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野高齢者歯科学教室准教授の渡邊裕委員でございます。

そのほか、関係職員が出席しておりますので、よろしくお願いたします。

続きまして、会議次第4の議題に進めさせていただきます。

議題の進行に関しましては、三浦委員長にお願いしたいと思っております。

それでは、三浦委員長、よろしくお願いたします。

4. 議 事

○三浦委員長

皆様方、お久しぶりでございます。

先ほど事務局に確認しましたら1年4か月ぶりの再会ということで、ついこの間のように思い返す計画づくりで、今、お手元に、先ほどご案内のあったとおり、本当に素晴らしい冊子体になって世に出て、この計画に従って様々な事業を展開しているところでございます。このような形になりましたのも、委員の皆様方のご尽力があつてのことと思っております。

実際に計画はしっかりとでき、ここから魂を入れて、さらに事業を推進していく段階を迎えております。本日も忌憚のないご意見をいただきまして、さらに、札幌市の市民の歯、口腔の健康づくりに寄与するような活動の基盤をつくっていきたいと思っております。

それでは、時間に限りもございますので、早速、議事を進めさせていただきたいと思っております。

本日も、円滑な議事運営に努めてまいりたいと思っております。よろしくお願いたします。

では、会議次第4の議題（1）第2次札幌市生涯歯科口腔保健推進計画の事業報告について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局

では、事務局から説明を差し上げたいと思います。

まず、資料1、A4横判の第2次札幌市生涯歯科口腔保健推進計画事業報告と書かれている資料をご覧ください。

1枚目でございますが、本計画の評価指標の一覧を記載しております。

現状値と書かれているところは、計画策定時の値となっております。

評価指標は16項目ございますが、11の指標で、計画策定時よりも改善を認めております。

なお、指標16の介護保険施設での過去1年間の歯科検診実施率については、まだ調査を実施しておりませんので、今回の実績にはお示ししておりません。

次のページから、ライフステージごとに実施しております事業についてご紹介をさせていただきます。

では、1枚おめくりいただきまして、乳幼児期でございます。

乳幼児期においては、1歳6か月児歯科健診、3歳児歯科健診、5歳児歯科健診、むし歯予防教室、さっぽろ8020セミナー、保育所幼稚園フッ化物洗口支援事業の六つがございます。

このうち、保育所幼稚園フッ化物洗口モデル事業においては、令和5年10月から始まった事業でございますが、事業開始前は施設独自の取組として15施設でフッ化物洗口を実施していたのですが、現在37施設まで実施施設が増加しております。

次のページに移りまして、学齢期です。

学齢期においては、市立小学校フッ化物洗口支援事業、健口ノート、歯と口の健康づくり推進事業推進校の指定、図画・ポスターコンクール、さっぽろ8020セミナーの学童編の四つの事業がございます。

このうち、市立小学校フッ化物洗口支援事業においては、令和6年10月から開始した事業でございます。

概要、実績等は記載のとおりでございます。

次のページに移っていただきまして、成人期に対する事業でございます。

ここでは、妊産婦歯科健診、歯周疾患検診、母親教室、口腔がん予防啓発の四つがございます。

口腔がんの予防啓発においては、札幌歯科医師会主催のさっぽろ歯っぴいらんどで共催として行っている口腔がん検診となっております。

次のページをご覧くださいまして、高齢期の事業でございます。

高齢期においては、後期高齢者歯科健診、後期高齢者訪問歯科健診、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施、地域リハビリテーション活動支援事業、高齢者口腔ケア研修事業の五つがございます。

このうち、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施については、次の資料2において

詳しく説明をさせていただきたいと思います。

概要、実績等は記載のとおりです。

次に移りまして、障がい者その他です。

一つ目は、障がい者（児）歯科健診・巡回歯科保健指導、二つ目に、在宅医療を担う歯科医師の人材育成、三つ目に、歯科衛生士リカバリー研修がございます。

概要、実績等は記載のとおりです。

簡単ではございますが、以上で資料1についての説明を終わります。

○三浦委員長

2024年度の計画の進捗状況の概要がこれらの資料によって提示をされたところでございます。

議題（1）につきまして、委員の皆様方からご意見やご質問、あるいは、確認事項をお受けしたいと思います。

ここで確認すべきことがありましたらご発言をお願いしたいのですけれども、いかがでしょうか。

○當山委員

以前、僕から20歳、30歳の対象年齢を拡大してほしいという要望を申し出ておりましたが、このたび、札幌市において、20歳、30歳も含めるということで、大変ありがたく思っております。

ただ、具体的にいつから実施するというのは決まっているのでしょうか。

○事務局

20歳、30歳における拡大については、令和7年度4月からの実施を検討しております。

○三浦委員長

来年度初めからスタートということで、また、国民皆歯科健診にもつながる動きになるかと思えます。よろしく願いいたします。

そのほか、ここで確認すべきことがありましたらお受けしたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○武藤委員

資料1の最後のページの歯科衛生士リカバリー研修ですが、いつも札幌歯科医師会のご協力の下で行っていただいていることを、まず深く感謝を申し上げます。

それで、ご質問は、年間9名ずついらっしゃることは分かったのですが、復職につながった数は把握できていらっしゃいますか。

○當山委員

令和6年度が1名、令和5年度がたしか2名だったと記憶しております。

○武藤委員

全国どこで聞いてもそのくらいの数字ですけれども、やはりそうなのですね。ありがとうございます。

○高橋副委員長

今、當山委員からありましたように、復職につながるケースが少ないというのは事実でございます。

あとは、周知する方法がなかなか難しく、いろいろな方法を試しているところですが、何が一番有効かというのは、まだ理事たちもつかみかねているといいますか、今年はこれに随分と応募があったという状況でございます。

なかなか難しい事業ですけれども、これからの大切な事業ですので、進めてまいりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

○三浦委員長

非常に重要な意義のある事業なので、周知方法は難しいところですが、ほかの地域の事例で効果がありそうなものを横展開していくなど、この会議で情報収集をするといいかと思いました。

ほかにございませんか。

○八若委員

具体的になってきたなという感じがしていますが、最後の障がい者のところの真ん中にある在宅医療を担う歯科医師の人材育成は、障がい児・者、医療的ケア児も含めて、そういう方々をターゲットとした人材育成でしょうか、それとも、その前に後期高齢者等々のものもありますよね。これは、健診など、もっと具体的な話になっていますが、そこも視野に入れたものなのではないでしょうか、ここに関して教えていただければありがたいと思います。

○事務局

在宅医療を担う歯科医師の人材育成事業につきましては、歯科医師会への委託業務として実施していただいているところになります。今のところは、高齢者の在宅歯科医療を想定した人材育成事業を今年度もされていたかとは思いますが、まだ正式決定ではないかとは思いますが、内部で障がい児、医療的ケア児に対する在宅歯科医療を取り扱ったりしていかなければいけないのではないかというような話が出ているやには聞いております。

今、八若委員からご指摘があったとおり、在宅医療は高齢者だけではございませんので、

障がい児、医療的ケア児に対する人材育成についても今後取り組んでいかなければいけないテーマとして札幌歯科医師会でもご検討をいただいているというふうに聞いております。

○八若委員

全国的に見ても、高齢者の在宅医療に関してはある程度ルーチン化していて、かなりノウハウもできてきたということは現状で分かっています。

ただ、医療的ケア児や障がい者ということになると、やはり、皆さん、二の足を踏んでいるというのは事実で、ここを何とかしなければというのは、今、全国的な課題になっていますので、ぜひ先駆けて札幌市が動いていただければうれしいなと思います。よろしくお願いします。

○三浦委員長

本件について、ほかに追加はございませんか。

○松岡委員

障がい者（児）歯科健診・巡回歯科保健指導の実績の確認だったのですが、令和5年度、令和6年度と少しずつ減っているのが見えるのですが、令和7年度以降も実施の予定があるのか、そこら辺の動きを知りたいです。

○事務局

これは12月時点でございますので、実際に、この後どう推移していくかというところはまだ分かりかねるところですけれども、この傾向も含めて注視していきたいと思っておりますし、また、今後、歯科健診や歯科保健指導の実績が増えるように引き続き周知・啓発を実施していきたいと思っております。

○八若委員

この件に関して、実際に僕も手伝いましたが、令和5年度まではある程度計画的に3年間やられていたと思うのです。でも、多分、今年はそこまでになっていないのではないのかなという気はします。それも影響が出ているのかなという気もしますが、そこら辺はどうでしょうか。

○三浦委員長

かなり踏み込んだところですが、障がい児・者の研修を広めていく上で非常に重要なところでは。

事務局、よろしくお願いします。

○事務局

障がい者施設に対する歯科健診事業ですが、私どもの最初の計画の目標値は、障がい者施設の歯科健診の実施状況は国の目標値もそうですけれども、まず、ターゲットは障がい者の入所施設の歯科健診の実施率を上げることを目標に掲げていたところでございます。

私どもが障がい者施設に対する歯科健診事業を立ち上げたときはコロナ禍で、入所施設は厳戒態勢で一切外部の人は入れられないという状況だったものですから、まずは、通所も含めて幅広く、まずは実施していただきたいという感じで事業を立ち上げたということで、少し多めの施設になってございます。

新しい計画の中でも、障がい者の入所施設の歯科健診の実施率を100%にすることを定めたこともございまして、今年度は少しアプローチを変えて、入所施設を対象とした歯科健診事業を少し積極的に働きかけているところです。

今までは集団歯科健診をやっていたのですが、入所施設については、嘱託の歯科医の先生が訪問歯科診療に行ったときに、何人かついでに歯科健診をする、あるいは、入所施設の方が近隣の歯科医院を受診したときにも無料で歯科健診を受けられるようにするという事業の見直しを今年度行ったところなのですが、その事業の見直しが10月、11月ぐらいになりまして、あとは、施設への周知、協力歯科医、嘱託歯科医の先生の周知がまだ行き届いていなくて、まだ事業が積極的に利用されている状況にはないということもあって、実施施設については、今、17施設となっております。

そういう形で事業内容を見直したところで、施設側のニーズに合っているかどうかも含めて、事業内容を見直していきます。

入所施設については、もう十分フォローされているのだということが分かれば、歯科健診に対する費用助成というものもしかるべきニーズのあるところまで、拡大したいと考えております。ただ、予算に限りがあるものですから、施設側のニーズも踏まえながら、サービスが必要なところに届くようなトライアルを来年度はやっていきたいと思っております。

○三浦委員長

そうすると、新しい計画に基づいて事業を見直して、そのためにスタートは実質上遅れていて、かつ12月時点なので実働がかなり少なくなっているのも、減っているわけではないという解釈を、今、事務局としてしているところですね。

障がい児・者に対する健診アプローチは、国でも非常に重要視している案件ですので、ぜひ見直しをさらに周知を図ってほしいところでございます。

○事務局

かなり踏み込んだ議論になってきているので、資料2も説明させていただいてから本格的な議論に移ろうかと思ったのですが、いかがでしょうか。

○三浦委員長

それでは、まだ話し足りないという方もいらっしゃると思いますが、資料2の説明の後にまとめてお受けをしたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

それでは、会議次第4の議題(2)主な事業の今後の予定・方向性について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局

では、資料2をご覧ください。

資料1では、ライフステージや対象ごとに各種事業を報告しましたが、資料2では、次年度、特に推進していく5事業についてご紹介させていただきます。

まず一つ目です。

保育所幼稚園等フッ化物洗口支援事業で、これは札幌歯科医師会様に委託しております。

事業の概要といたしましては、フッ化物洗口に必要な物品を札幌歯科医師会からフッ化物洗口を実施する保育所、幼稚園、認定こども園等に無償で提供するというもので、原則、実施施設及び保護者の費用負担はないものとなっております。

現状、認可保育園が6施設、認可外保育所が2施設、幼稚園が4施設、認定こども園が25施設の計37施設となっておりますが、全体の規模感からすると実施施設はまだ少ない状況ですので、さらに増やしていきたいところでございます。

今後の予定・方向性といたしましては、現在約40施設での実施ということで、次年度は実施施設の倍増をめどに取り組んでいくために、引き続き、札幌市私立保育連盟様をはじめ各団体の皆様のご協力を得ながら、事業の周知啓発に取り組むほか、団体未加盟園に対しても周知を積極的に行っていきます。さらに保育所、幼稚園、認定こども園の嘱託歯科医師から施設への働きかけについても検討していきます。

また、他市において、消毒液を洗口液と誤認する事故があったことから、安全管理について施設への周知を強化します。具体的には、洗口に使用する器材は家庭用洗剤による洗浄で十分であり、消毒は不要であるとの指導を行っていきます。

二つ目が市立小学校フッ化物洗口モデル事業でございます。

事業の概要といたしましては、市内小学校の4校において、外部人材の活用を含めたフッ化物洗口のモデル事業を行うというものでございます。

現状といたしまして、モデル実施校のうち、太平南小学校と米里小学校は全学年で実施しております。伏古小学校は2年生、3年生で実施しております。二条小学校は5年生、6年生で実施しております。

今後の予定・方向性といたしましては、教職員の業務負担の軽減に向けた外部人材の活用を引き続き実施し、効果的・効率的な実施方法の検討を行います。また、申込率の向上に向けた保護者向けの周知・啓発の検討を行います。

三つ目の歯周疾患検診です。

事業の概要といたしましては、40歳、50歳、60歳、70歳を対象に、歯科医師会の協力歯科医療機関において、歯周疾患の早期発見、早期治療を目的とした検診を行います。

現状といたしまして、令和5年度の受診率は3.0%ということで、全国の平均が5%という報告もございますので、受診率の向上が課題となっております。

現状、自己負担500円となっており、70歳に関しては無料となっている事業でございます。

今後の予定・方向性といたしましては、国の補助要綱が改正され、今年度より20歳、30歳も歯周疾患検診の対象となりました。このため、札幌市においても、令和7年度より20歳、30歳の追加を検討しております。

それ併せて、対象年齢が増えることから、名称を「歯周疾患検診」から「成人歯科健診」に変更いたします。

また、受診率の向上に向けて、個別通知を継続するほか、新規対象となる20歳、30歳に対する啓発についても、大学や歯科医師会と連携しながら検討を進めていきたいと思っております。

四つ目の高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業でございます。

概要といたしましては、高齢者のオーラルフレイルや低栄養の予防、歯科診療につながない高齢者の歯科受診勧奨等を目的に、歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士による健康教育や個別保健指導を行います。

具体的には、高齢者の通いの場等への歯科医師の派遣は札幌歯科医師会に委託しております。老人クラブ、町内会等の高齢者の通いの場に、歯科医師を派遣し、健康教育、口腔アセスメント等を実施します。

栄養口腔フレイル講座に関しては、札幌歯科医師会、北海道歯科衛生士会、北海道栄養士会に委託しているものでございます。口腔及び栄養に課題があると考えられる後期高齢者を対象としたもので、歯科医師による歯科健診、歯科衛生士によるオーラルフレイルチェック、管理栄養士による低栄養予防のための栄養指導を行います。

また、歯科衛生士による電話、訪問による個別指導は北海道歯科衛生士会に委託しております。脳卒中の既往等、誤嚥性肺炎のリスクが高い、かつ歯科診療所を受診していない要介護高齢者を対象として、歯科衛生士による電話や訪問等による指導を行い、歯科医療機関の受診につなげるといったものです。

現状といたしましては、高齢者の通いの場等への歯科医師の派遣実績は、令和6年12月時点で14か所です。

栄養口腔フレイル講座に関しましては、1月23日に中央区民センター、2月1日に北区民センター、2月16日に南区民センターで実施しました。

また、歯科衛生士によるアウトリーチに関しては、現在、対象者への勧奨を行っている最中でございます。

今後の予定・方向性といたしまして、高齢者の通いの場等への歯科医師の派遣について

は、令和7年度については、年度当初より事業を開始することができることから、より多くの地域での展開を予定しております。

栄養口腔フレイル講座については、今年度は試行的に3区で実施したところございますが、令和7年度においては全区での実施を予定しております。今後、さらなる事業周知を加え、介護予防センター等の関連機関による積極的な勧奨のご協力を得ていきたいと思っております。

五つ目の札幌市障がい者（児）施設歯科健診事業でございます。

事業の概要といたしましては、障がい者施設利用者を対象に、歯科健診や歯科保健指導、職員に対する口腔衛生管理に関する研修を行います。

現状といたしまして、12月時点での実績でございますが、歯科健診は17施設の217名、歯科保健指導及び職員研修は27施設で実施しました。

今後の予定・方向性でございますが、計画の目標である入所施設における歯科健診については、個別健診方式を導入したところでございます。対象施設に加え、協力歯科医療機関への事業周知に努め、施設入所者の歯科健診実施率の向上を図ります。

また、通所施設においては、歯科健診の対象とする施設の検討を行うほか、引き続き歯科衛生士を派遣し、歯科保健指導及び職員研修を行います。

以上です。

○三浦委員長

先ほどご説明があった今年度の事業の進捗を受けて、次のステップとなる令和7年度の事業案をお示しいただきました。

これから、資料2に従って、委員の皆様方からご意見をいただきたいところがございますけれども、各ライフステージに分かれていますので、私の進行の関係上、4区分にさせていただければと思います。

項目1、項目2は、フッ化物洗口という共通の部分がありますので一まとめとし、歯周疾患検診、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業、そして、最後に、札幌市障がい者（児）施設歯科健診事業ということで、この四つのパートからご意見をいただければと思っております。

本日ご欠席の手嶋委員から、4番目の高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業に関してのご意見をいただいておりますので、該当の部分の討議のときにご紹介したいと思っております。

最初に、資料2の記述事項と、そして、今ご説明あったことを踏まえまして、フッ化物洗口に関する事業についてご意見をいただきたいと思っております。

この事業は、歯科医師会の先生方のご尽力があっでできている事業でございますので、口火を切って高橋副会長からご発言いただけますと、大変ありがたいです。

○高橋副委員長

小学校におけるフッ化物洗口は、本当に我々の会の悲願でございまして、このたび10月からモデル事業の4校で開始されたということで、ご協力いただいた校長会の先生、教育委員会、本当にご理解とご協力をありがとうございましたとお礼を言いたいと思います。

この事業も、今のところはスムーズに、トラブルもなく推移しているのですけれども、周りを見ますと、江別市は同じく10月から全校実施を開始している、小樽市も小学校の全校実施を始めていますし、石狩市は問合せが随分あるということです。

周りの市で一斉に始まってきているということですが、札幌は条件が違いまして、小学校が200校ということで、規模が全然違いますので、今回のモデル校事業の大事なものしびを消さないように、徐々にでもいいですから、拡大して行ってほしいと考えているところでございます。

分かってはいたのですけれども、なかなか難しい問題も含んでおります。今後とも、皆様のご協力、ご支援をよろしくお願ひしたいと考えております。

○三浦委員長 本事業について、何かご発言はありませんか。

○八若委員 まずは滑り出したことはすばらしかったと思います。

ゼロか1ですから、そういう意味では、本当にこの4校が中心になって少しずつ広がればと思っておりますし、ご協力はしっかりさせていただきたいと思っております。

ここでお聞きしたいのですが、現状、伏古小学校は2年生、3年生、4月からはどうなのでしょう、また2年生、3年生ですか、それとも、2年生、3年生、4年生になるのでしょうか。二条小学校は5年生、6年生は中学校に行ってしまうのですけれども、ここだけ確認したいので、よろしくお願ひいたします。

○事務局

各モデル校の希望も確認したうえで関係者と調整していくものではございますが、安全で効率的な実施方法に向けて調整を重ねてまいります。

○三浦委員長

順調に根づいてほしいと思います。

この案件は学校という場で行うものでありますので、ぜひ高屋敷委員からもご発言をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

○高屋敷委員

計画に位置付けられた小学校におけるフッ化物洗口については、モデル事業の実施に取り組むとともに、児童、保護者への丁寧な説明や、学校、教職員の負担軽減等に配慮しながら進めていただくということで、まずはそのことを大切にモデル校の4校でスタートしてきたと思っております。

実際の取組についても、今、事務局からご説明がありましたけれども、まずはそれぞれの学校の希望に沿った対象学年からスタートしております。10月にスタートしたものですから、ちょうど4か月になるのでしょうか、そして、今、次年度のことも計画に入っているということでした。学校からは、外部人材の活用をいただいていることが、非常によいと伺っています。このモデル事業を継続していただきながら、その効果検証をしっかりといただくことが大切かと思っているところです。

今回のモデル事業の今後の予定の方向性を拝見したところ、申込率の向上に向けた保護者向けの周知・啓発の検討という一文がございまして、これは、私がちょうど2年前の第1回目のときに、フッ化物洗口について、皆さんは専門家なのでよくご存じだとは思うのですが、私は不勉強でよく分からなかったとお話しました。フッ素を塗るというのは自分の子どもが歯医者さんに行ってやったということはあったのですが、フッ化物洗口ということがイメージできないので、子どもや保護者の方に十分周知されることは、とても大事なことだと思います。そういった工夫を今後されていくと、ここに書かれている申込率の向上になっていくのかなと思っているところです。

まずはモデル校で、どんな効果や課題、改善点等があるのかを検証していただくことが重要に思っております。引き続き、よろしくお願いいたします。

○三浦委員長

モデル事業に関しての効果、検証と、そして、申込率の向上等の具体的なヒントをいただきました。

事務局から補足はございませんか。

○事務局

実施率の向上は、今のところ、70%を下回るぐらいなのです。これは初年度ということもあって、仕方がないかなと思っているところです。ほかの自治体の状況を見ると、90%ぐらいが多いので、今後、事業が定着してくればそういう率になっていくのかなと思っているところです。

子どもも始めてみて分かったといいますか、どうしても事業を始める前までは安全性に関する話が非常に多いので、それに集中したようなパンフレット等を作成してはいたのですが、蓋を開けて話を聞いてみると、保護者の意識が非常に高く、既に歯医者さんでフッ化物塗布をしている家庭が申し込んでいないことが分かってきております。今日ご出席の皆様方は、フッ化物塗布とフッ化物洗口の両方をやれば、さらに予防効果が上がることが分かっていますので、そういう情報の周知がちょっと抜けていたなという反省点もございますので、そういった部分も少し考えていきたいなと思っているところです。

引き続き、校長会の先生方にはいろいろな面でご相談をさせていただくとは思っていますので、よろしくお願いいたします。

○三浦委員長

補足をいただきまして、ありがとうございました。

今の事務局の回答とも少し関係しますけれども、意識が高いご家庭も多い札幌市の特性も踏まえての対応について言及していただきました。委員の中にPTA協議会の小戸田委員がいらっしゃいますので、一言、フッ化物洗口に関してご意見をいただければと思います。

○小戸田委員

保護者として、学校で行っていただいて、そのサービスを受ける立場であるので、PTAとしてよりは、学校の先生たちや学校で活動する方たちが困らないような事業の拡充をお願いしたいです。

高屋敷委員もおっしゃられたように、皆さんみたいにプロではないので、フッ化物洗口とフッ素を歯医者でというものの違いも正直分からなかったもので、勉強途中というところではあるのですが、今、モデル校で実施していただいたところがあるということですから、この学校が実施する中で、どういうところがメリットで、どういうところで困っているというものをもっと明確に見えるようにしてくれると、先ほど先生もおっしゃられたように、活動する側が安心しますし、PTAや保護者としても何かお手伝いできることがあるのであれば、情報をしっかり教えていただけると、活動の手助けやサポートもできるとは思います。

○三浦委員長

いろいろな活動を推進していく上で、やはり見える化というのは大変重要だというご指摘、全くそのとおりかと思えます。このあたりは、先ほどいただきました効果検証と裏表の関係ですから、今後、札幌市でもやられていくと承知しております。よろしくお願ひします。

そのほか、フッ化物洗口に関しまして、ご意見がありましたらお受けしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○三浦委員長

引き続きまして、成人期の歯、口腔の健康づくりに深く関与する事柄でございます。

歯周疾患検診についてでございますけれども、先ほど、資料1と冒頭の秋野部長のご挨拶のところで、次年度、20歳、30歳は4月初頭を検討するというような情報提供があったところでございます。それらのことを踏まえまして、歯周疾患検診についてご意見をいた

だきたいと思います。どこの自治体も受診率の向上に苦しんでおりますので、ヒントになるようなご意見をいただくと大変ありがたく存じます。

いかがでございましょうか。

○當山委員

20歳、30歳は4月から実施するというので、今、現行では、札幌市は3%で、全国平均が5%という現状でございますが、今後、恐らく、20歳、30歳が追加することで増えるとは思いますが、ただ、現状は個別通知で案内しているのですが、大学、歯科医師会と連携しながら検討していきたいという文言がありますので、これは具体的にどのような感じで啓発するというところまで考えておりますでしょうか。

○事務局

まず、歯周疾患検診の受診率の向上に関しては、やはり効果的な周知・啓発がまず大前提でございます。そういったところで、次年度、引き続き個別通知による周知を行っていくのですが、それに加えて、ウェブ広告を用いて、各年齢層に成人歯科健診の情報を効果的にうまく発信していきたいと考えております。

また、我々、ウェルネス推進課は、健康に関する各種イベントを実施しております。そういった健康に関するイベントの際に、現歯周疾患検診の周知を行っていければと考えております。

さらに、これは歯科医師会の先生方にご協力いただきたいところですが、歯科医師会の先生方の中で歯周疾患検診の協力医療機関になっている歯科医院の先生方におかれましては、来ていただいている患者さんを通じて、歯周疾患検診を周知できるようなツールとして、例えば、ポスターを各歯科医院に配付させていただいて、待合室に掲示していただくなどして、歯科医院にかかっている方が歯周疾患検診、成人歯科健診を知るきっかけの一助になるような周知をやっていく形を検討しております。

また、大学に関しても、大学で歯周疾患検診ができないかどうかも含めて、今後、大学等と話ができればと考えております。

○三浦委員長

多面的に今幾つかの対応を考えているというご報告でございました。

座長から1点質問です。

個別通知を基盤とするということですが、国の歯周病検診マニュアルが新しいバージョンになって、ナッジの活用というものを非常に重要視しているところです。札幌市において、ナッジの活用はどのように考えていらっしゃるか、分かる範囲で構いませんので、よろしく申し上げます。

○事務局

ナッジを使った個別通知、受診券に関しては、検討しているところでございます。

今年度の個別通知に関しては、試行的にナッジの要素を入れたものにしております。ただ、そのナッジの効果が出るかどうかはこれからの検証にはなるのですが、引き続き、個別通知におけるナッジに関しては、研究をしながらよりよくしていきたいと考えております。歯周病検診マニュアル 2023 に、ナッジを活用した受診券が例示されておりますので、参考にして受診券の内容の改善、向上に努めていきたいと思っております。

○三浦委員長

そのほか、歯周疾患検診の件につきまして、追加でご発言ありましたらお願いしたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○三浦委員長

そうしましたら、4の高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業のところに移りたいと思います。

既に手挙げをさせていただいている大野委員、よろしくお願いたします。

○大野委員

皆さん、こんにちは。

認知症の立場から言いますと、実際にここに高齢者の通いの場云々と書いていますけれども、通い場として、例えば、認知症カフェ、認知症サポーター養成講座、さらに、ステップアップ講座の中に派遣してもらってこのような啓発活動をするということはいかがでしょうか。

今までは単独で認知症カフェを開催していたのですが、去年あたりの傾向を見ますと、合同で認知症カフェをやっていて、結構人が集まってくるのです。それであれば、やる価値があるのではないかと思うのです。

私どもが参加したのは西区だったかと思うのですが、二十数名以上の方が合同認知症カフェということで集まってくるのです。そういう人たちはやはり意識が高いですから、そういうところでこういう運動をしていただければ、さらに広まって底辺の拡大になるのではないかと考えていますので、そういうことも考えていただければいかがかなと思います。

○三浦委員長

オレンジカフェの活用等、具体的な示唆に富むご発言をいただいたところでございます。本件について、事務局から何かございますでしょうか。

○事務局

とても示唆に富んだご意見でございますので、前向きに検討していきたいと思っております。

○三浦委員長

非常に意欲の高い方が参加していただいているという情報もいただいたので、前向きにご検討いただければと思います。

そのほかは何かございませんか。

考えていただく間、先ほど申し上げたとおり、手嶋委員から、この部分に関して、特にフレイル予防事業に関してご意見を事前にいただいております。そのご意見を共有させていただき、その間に委員の皆様方におかれましては、質問事項等をお考えいただければと思います。

事務局、手嶋委員の事前意見のご紹介をよろしくお願いいたします。

○事務局

手嶋委員から、札幌市高齢者フレイル予防事業についてということでご意見を賜っております。

「本事業は、参加者の皆さんから好評な事業と伺っております。この事業では、口腔内の状況を把握した上で栄養相談を行っており、食品の選び方や調理方法など、管理栄養士から説明できるため、相談内容の充実にもつながっています。

今後も、歯科医師会、歯科衛生士会と連携して、高齢者のフレイル予防事業を進めたいと考えております。」とのご意見をいただいております。

○三浦委員長

以前から推進会議にて歯科と栄養の連携のところ、手嶋委員には前向きなご意見を多数いただいているところでございましたので、共有をさせていただきました。

それでは、この会場にいらっしゃる委員の先生方から、引き続き高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業についてご意見をいただきたいと思います。

今、ちょうど手嶋委員のコメントの中に、歯科医師会、医師会歯科衛生士会との連携という言葉がございましたので、両団体から、一言、ご意見をいただきたいと思います。特に一緒にやられることが多いと思われる武藤委員から、何かご意見があったらいただきたいと思います。

○武藤委員

育てる事業ということで、いろいろと行ってみて、また、令和7年度に向けて今後検討していく事業なのですけれども、ちょうど3回のフレイル相談会が終わりまして、マスコミも入っていただいて、本当にやりきった満足感のあるイベントとなりました。

渡邊委員にも来ていただいて、楽しい相談会を開催しました。そして、今、手嶋委員のメッセージがあったように、その後に管理栄養士に入っただけという非常によい流れをつくっていただきました。これは、後ろに立っていらっしゃる事務局の2人のご功績だと思っています。

今後どうしていくか、人員を派遣しなければいけないという非常に当たり前の大変な作業もありますし、もちろん、楽しいだけではなくて、きちんとした情報もお伝えしなければいけません。正しく楽しく情報を流すためには、我々もどンドン頭をクリアにしていかなければいけませんし、それも大変です。今はやりきった満足感でいっぱいですが、今後に向けて、人材育成、人材派遣、そして、そのシステム作りを渡邊委員からまたご指導をいただきながらと思っています。後は、當山委員のご感想を聞いてから、渡邊委員に回していただけるとよろしいかと思えます。

○三浦委員長

そうしたら、當山委員、よろしくお願ひいたします。

○當山委員

一昨日、僕は1回目と3回目に参加させていただいたのですが、歯科医師が口腔のチェック、歯科衛生士が口腔機能のチェック、管理栄養士が低栄養にならないような指導という流れの三位一体でやった事業でございますが、まず、利用者からは、今日、来てよかったなという声が結構ありました。

75歳以上のハイリスクの利用者をターゲットにした事業でございますが、とはいっても、みんな元気なのですよね。しっかりかめる、中には要注意な利用者もいましたが、そういう方に関しては、かなりの栄養指導が入ったのではないかなと思います。

次年度に向けて、全区で実施するということですが、実際、僕も現場にいて、この事業は大変すばらしいものだと思います。

これは、全区で30回ぐらいですか。

○事務局

1区2回ぐらいはできたらいいなとは思いますが、具体的な実施回数は今後検討してまいります。

○當山委員

よろしく申し上げます。

○三浦委員長

そうしましたら、さらにバージョンアップしていくということで、渡邊委員からよろしく願いいたします。

○渡邊委員

2月16日に参加させていただいて、非常によい事業だと思いました。

栄養指導も、30分みっちりやってみました。多分、高齢者の方は、こんなに管理栄養士にマンツーマンで指導を受けるということは病院でもないと思いますので、非常によかったと思います。

僕も南区で見学したのですけれども、真駒内の介護予防センターの方が非常にリスクの高い、リアルなフレイルの方を抽出していただいて、その方を中心に呼んでいただいております。元気な方といえば元気な方ですけれども、つえ歩行ぎりぎりみたいな方が多く、歩行がおぼつかない方が20人ほどいらっしやったという状況で、本当にターゲットがベストマッチの事業だったと思います。

今後は、そういう方を介護予防センターの方が血眼になって探すのではなくて、効率的に今のシステムを使って抽出して事業に結びつける、そして、その方たちが経年的にフレイルが重度になったときに、速やかにアウトリーチ型に移行できるような流れをきちんとつくっていくためにも、後期高齢者の質問票を収集できていないターゲットの人たちにもちゃんと行き渡らせて、それを市が収集して、KDBに入力して、対象者として市がアプローチできるような体制を整えていただければと思います。

○三浦委員長

システムチェックに対象者をしっかりと捉えていくというのは保健事業の根底にあるかと思っておりますので、事務局におかれましては、その点もぜひ検討していただければと思います。

対象者の特性から考えますと、長崎委員からもご発言いただけると大変ありがたいと思います。よろしく願いいたします。

○長崎委員

僕たち介護支援専門員も要介護高齢者を対象にしていますが、要介護高齢者に関しましては、札幌市は訪問歯科等がかなり充足していますので、ケアマネジャーの視点としても、非常にそこはスムーズにいつているかなと思います。

ただ、誤嚥性肺炎になってくると、歯科の問題だけではなくて、栄養だとか、結局、食

形態にもなってくるので、そこの知識の誤認が非常にあるかなと思います。ですから、そこも含めて、利用者だけではなくて、ご家族の教育というところは、当然、訪問看護や栄養指導は入っているのですが、今までの食生活の習慣や認識を変えることは難しいかなと思っているので、そういったところも改善していければいいというのが1点です。

要介護者になると、言い方は悪いのですが、どうしても体のことに目がいってしまって、歯は最後なのです。通わなければいけないとなると、歩いていくのも大変だし、歯医者さんに何回も行かなければいけないしとなってくると、行くまでに二の足を踏んでしまうところがあるので、それこそ、介護予防をする中で、早めに芽を摘んでいくような啓蒙が非常に大事だなと思って、話を伺っていました。

○三浦委員長

そのあたりは大変重要ということで、事務局から補足をよろしく願いいたします。

○事務局

今、教室の話が多かったのですがけれども、栄養口腔フレイル講座については、先ほど渡邊委員からあったように、少しフレイルが心配な方、つえ歩行で何とかまだ歩けるといぐらいの方を抽出して、その状態を維持してもらうための取組をしております。

もう一つ、説明はそんなにしていなかったのですが、私どもは、要介護高齢者を対象としたアウトリーチ事業も、これからはしっかりやっていきたいと思っております。

今、長崎委員からお話があったように、歯科や栄養の優先順位がどうしても低くなってしまふところを、歯科衛生士あるいは栄養士の方が少し電話をして、今、こういうことをすれば、おじいちゃん、おばあちゃんにとってこんないいことがあるから治療に行ってみようかみたいな話をして、動機づけがしっかりできるといいかなとは思っています。

困ってはいるけれども、優先順位が低い、あるいは、誰に相談したらいいか分からない、多分、そういうことがあるかと思しますので、そういうところにはこちらから本人あるいは家族にアプローチすることで、適切な歯科治療や栄養指導につながるような取組もしていきたいと思っております。

ある程度の仕組みも整ったら、居宅介護支援事業所の方、あるいは、委員にはいないのですが、訪問看護ステーションの方にも栄養士や歯科衛生士がアプローチできる、訪問歯科健診もできるということを周知させていただきまして、サービスが行き届いていない要介護高齢者に歯科と栄養のアプローチができるような仕組みをつくっていききたいと思っておりますので、引き続きご協力をいただければと思います。

○三浦委員長

とてもいい取組かと思えます。新たなプッシュ型のアウトリーチサービスということで期待をしておりますので、よろしく願いをいたします。

まだまだご意見や課題があろうかと思えますけれども、次も大変重要な案件がございますので、障がい者（児）施設歯科健診事業に少し論点を移していきたいと思えます。

こちらに関しましては、既に事務局から説明があったところですのでけれども、委員の中にエキスパートの先生方がいらっしゃいますので、ぜひご意見をいただきたいと思えます。

まず、口火を切って木間委員、何かご意見がありましたらいただきたいと思えます。

○木間委員

障がい者の入所施設を中心に健診、それから、研修というところで、入所施設が一番取り組みやすいところですし、障がいの重い方たちという視点からは取り組みやすいと思えます。

ただ、裏を返すと、やっているかやっていないかは別ですけれども、入所施設の場合は、障がい者が重いので職員から歯磨き指導を受けているので手厚くできているといった見方ができますが、通所施設の障がいの軽い方たち、就労継続支援のB型やA型といった人たちのほうが手をかけられていないという実際問題があるのです。

ここにも書かれていますけれども、通所施設に対してどうアプローチをしていくのか。これは、就労継続支援B型は何とかできるにしても、就労継続支援A型は絶対無理だと思いますし、先ほど、秋野部長からグループホームということもありましたけれども、グループホームは、日中はいないのにいつやるのか、では、土・日にやるのですかという話にもなりますから、障がいを持った方たちに直接健診をやる部分と、それを介助、支援する職員、それから、在宅の方であれば保護者の方、ご家族の指導と二面性を持ちながらやっていくことが大事ではないかなと思って、これを見ておりました。

入所施設が17施設、217名の方が健診を受けたということです。ここは、周知していくことによってどんどん上げていくことは、意外と知的障がい者の入所施設はみんな真面目ですから、誘えば乗ってきますので、そういったところの周知が一番のポイントになってくるかと思えます。

○三浦委員長

大変重要なご意見をいただきました。

通所施設へのアプローチというのは国でも大きな課題でして、ここを次にどうしていくのかというのは非常に札幌市においても重要な視点かと思えます。ご意見をいただきまして、ありがとうございました。

引き続き、松岡委員からご意見をいただきたいところでございます。よろしく願いいたします。

○松岡委員

先ほど、個別健診方式を導入したいと考えているというお話をいただきました。

今、私が所属している札幌ポプラ会は、強度行動障がいの方も多くいらっしゃいます。ですから、ご家庭で見ている状況も多くあります。

強度行動障がいは、札幌市でも人数を発表したかと思います。今は数字を覚えていないので回答はできないのですが、かなりの人数がいます。その方々は、恐らく、ご自宅で見えて出られない状況かなとも想像をしていますし、実際の声もそのようであります。

ですから、ここに保護者向けの周知の啓発、検討を行うと書いてあるのですが、その部分では、ポプラ会に限らず、育成会ですとか、様々な会と私たちの親の会は連携していますので、そちらの情報をいただくようにすると、親の会同士でも連絡ができますので、周知のほうはご協力させていただきたいと思いますので、健診を受ける人が増えるといいなと思っています。よろしく願いいたします。

○三浦委員長

今、周知のご協力もいただけるということで、大変ありがたいなと思っています。引き続きよろしく願いいたします。

八若委員、ぜひご意見をいただきたいので、よろしく願いいたします。

○八若委員

先ほどご質問をさせていただいて、現状が非常に分かりましたので、当初の予定の入所にかじを切って始めたということはすごくよかったですし、それに関して、ポイントを絞ったいろいろなノウハウの情報はいただいたので、まずはやってみて、多分、障がいの方々は一人一人違いますし、環境も違うと思うのです。その中で、通りで健診というわけには多分いけないと思うのですが、そういう中で、いろいろと経験や情報を積み重ねていくと、いろいろと広がっていくのではないかと思いますので、まず積極的に動いてやってみるのがいいのではないですか。

ご協力は惜しみませんので、よろしく願いいたします。

○三浦委員長

協力もしていただけるということで、大変うれしく思います。引き続きよろしく願いいたします。

そのほか、5番目の障がい者（児）施設歯科検診事業についてご意見はありませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○三浦委員長

また後で全体を通してご意見をいただく機会を設けますので、そのときにお気づきの点がありましたら、お寄せいただければと思います。

このセッションも、大変有益なご意見をいただきました。そして、ヒントばかりではなく、ご協力もいただけるというご発言を多数いただいたこと、併せてお礼を申し上げます。

また、いただいたご意見を基に、事務局ともご相談をし、今後の対応策についてブラッシュアップしてまいりますので、引き続きよろしくお願いをいたします。

次に、会議次第4の議題（3）札幌市歯科口腔保健推進会議「摂食嚥下障害対策専門部会」の設置について（案）、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局

では、資料3をご覧ください。

まず、前段として、この背景といたしまして、要介護高齢者の死因として、第1位は肺炎ですけれども、その多くは飲み込む機能の衰えや口腔管理が十分に行われていないということによって生じる誤嚥性肺炎となっております。先ほど長崎委員からもご指摘のあったとおりです。

介護現場から肺炎を起こすことなく、なるべく口から食事を安全に食べることができるように、摂食・嚥下障がいに対する診断やリハビリテーションを支援してくれる医療専門職の情報や、医療介護職を対象とする研修の充実が必要であるとの要望を多く聞くところ です。

そこで、第2次札幌市生涯歯科口腔保健推進計画において、摂食・嚥下障がいを有する患者に対する歯科医療等のサービス提供体制について検討することとしているために、札幌市歯科口腔保健推進会議に摂食嚥下障害対策専門部会の設置を検討しております。

構成員といたしましては、札幌市歯科口腔保健推進会議の構成員から、札幌歯科医師会、札幌市医師会、北海道栄養士会、北海道歯科衛生士会、札幌市介護支援専門連絡協議会、北海道大学、北海道医療大学等により構成することを想定しています。

なお、摂食・嚥下障がいに対しては、専門性が高いということ、また、多岐の職種が関与して対応していることから、その他の専門委員の追加に関しても幅広く検討したいと考えております。

検討内容の案といたしましては、こちらに記載のあるとおりなのですが、札幌市における摂食・嚥下障がい患者に対する多職種連携の課題について、摂食・嚥下障がいに対する専門団体の取組状況と連携の可能性について、摂食・嚥下障がいに関わる歯科専門職を含めた人材育成を検討案として考えております。

今回は、摂食嚥下の部分を中心に記載させていただいているのですが、その他、先ほど大野委員からもご指摘のあったとおり、認知症を持つ患者さんに対する適切な歯科医療提供のための連携についてということも重要な課題ですので引き続き検討の場を持ってまいりたいと考えております。

検討回数でございますが、2回を想定しております。

検討内容としては、これはあくまで案ではございますが、受入れ医療機関の情報収集並

びに公表とともに、医師や歯科医師、対象の専門研修や他職種対象の研修内容を検討していただくことを中心に専門部会で議論をいただければなと想定しております。

以上で資料3の説明を終わらせていただきます。

○三浦委員長

第2次札幌市生涯歯科口腔保健推進計画の中で、一步踏み込んだ口腔機能から派生して、摂食・嚥下障がいをもつ患者や認知症の方の歯科へのニーズが高まっているというところを前置きとして、人材育成も含めて対応していきますという計画案の内容を受けての具体的なアクションの一つとして、摂食嚥下障害対策専門部会を置きたいというご提案でございます。

内容的にはご説明のとおりで、推進会議の構成員から一部重任、プラスアルファ、別途、専門委員を追加していくというしつらえになっております。

こちらに関しまして、座長としては、設置は妥当ではないかと考えるところですが、ぜひ委員の先生方のご意見も伺いたいと思います。

この部分は、これまでも口腔機能低下に対する人材育成に大変ご尽力をいただいている渡邊委員から、ご意見をいただきたいと思います。

○渡邊委員

札幌市でも私が来る前にこういった摂食嚥下のセミナーが年に何回も行われていたようですが、コロナ禍で頓挫して、今、行われていないというものもあります。

ただ、地域の状況はもう待ったなしで、8020が進んで、歯をたくさん持った高齢者が増えてきて、どちらかという、歯があると誤嚥性肺炎のリスクが増えるという研究結果も出ていて、そういう方が寝たきりになったり、要介護になったり、自分でセルフケアができなくなったりして誤嚥性肺炎のリスクが増えていくということから、しっかりと多職種で連携して委員会を立ち上げて、広く、他職種で連携するセーフティネットワークをつくっていくというのは、非常に重要なことだと思いますので、ぜひとも設置に向けて充実したものにしていっていただければと思います。よろしくをお願いします。

○三浦委員長

まさしく、人材育成には他職種連携の視点が必須であるというご発言をいただきました。

それでは、先ほどのご意見の中にも誤嚥性肺炎への対応を言及していただきました長崎委員、何か追加がございましたらよろしくをお願いします。

○長崎委員

高齢者にとって食はすごく大事な欲求で、食べる力が生きる力でもあるので、なるべく食べてもらいたいと思うのですけれども、誤嚥の可能性が出てくると食べられなくなっ

てくる中で、いろいろな知識が必要で、そういった中では、我々、ケアマネジャーが初めに相談したりするのは、実はST、言語聴覚士なのです。あとは、訪問看護師の視点からというところが多いので、言語聴覚士は必須かなと、僕の中では勝手に思っていました。

あとは、たまたま栄養という視点から、介護保険では居宅療養管理指導で栄養士が訪問できるのですけれども、その件数がなかなか増えないということで、実は、2月2日に札幌歯科医師会の訪問診療の先生たちが主体となって、栄養に関する分科会みたいな形で初めてやりました。歯科医師会の立場から當山委員もいらっしやって、栄養士会、歯科医師会、訪問看護ステーション、歯科衛生士、在宅の訪問診療医で話し合いがあって、その中でも、言語聴覚士がいてもよかったよねみたいな話があったので、言語聴覚士はいたほうがいいかなと思います。

○三浦委員長

法制的にも歯科医師は言語聴覚士の方々としっかりと組む形にはなっていますので、その点も踏まえて、また事務局で人選を進められると思います。

最後に、事務局から、認知症の口腔機能低下も含めての歯科医療のつなぎというところでご説明がありました。これは推進計画にもそういう文面になっているところなのですが、認知症の方々への歯科的なアプローチの拡充という視点も包含されるということで、大野委員からご発言をいただければと思います。

○大野委員

私の介護の経験ですけれども、やはり認知症の方は、例えば、入れ歯が合わないだとか、何かがおかしいと思っても、自分からは絶対に言いません。だから、そういうことで、周りのご家族や介護福祉士が注意することが必要ではないかなと思います。

うちの者も上下に入れ歯を入れましたけれども、間違いなく、うまくかみ合っていないのが分かっているのに、自分からおかしいとは言わないです。だから、そういう面で、周りにいる方が注意するということがやはり大事ではないかと思います。

ちょっと飛躍しますけれども、例えば、便秘なんかもそうですよね。普通の人であれば、便秘で大変だと言いますが、本人は一切言いません。やはり周りの人が便秘薬を絶えず調整していましたので、歯のほうもそのように配慮するような形でやってもらえればいかがかなと思います。

○三浦委員長

介護者に対するアプローチも非常に重要というご視点のご意見をいただきました。

摂食・嚥下障がいというと、どうしても高齢者というイメージが頭の中に浮かんでしまうところですが、障がい児・者も、当然、この事業の対象になってくるかと思いません。

その観点から、松岡委員、何かご発言があったら、よろしく願いいたします。

○松岡委員

障がいに関しますと、通常のもの、食事や食べられるものというふうに思うと思うのですが、そうではない異食や、反すうと言いまして、食べたものを胃から出してしまうようなことも起こり得る人たちなのです。ですから、そういったところからも、専門職は気づくかとは思いますが、気づかないような保護者であったり、さらに知的障がいがあると自ら訴えることは難しいかと思しますので、そのこのところのいろいろな意味での周知が必要なのかなと大野委員のお話を聞いて感じました。

○三浦委員長

そのような視点も含めて、対応を図っていく必要があると思います。

そうしましたら、八若委員にご発言いただくと大変助かります。

○八若委員

確かに、障がい児・者の方々の摂食嚥下に対するリハビリというよりはハビリテーションになりますけれども、脳性麻痺の方々などにも必要になってくるかと思えます。

摂食嚥下というところにスポットが当たると、どうしても機能ということになるのですが、先ほど来、出てきていますように、口腔の清掃状態がかなり関わります。口腔機能の維持と、口の中をきれいにして肺に汚れを行かせないというところと、多分、両輪だと思うので、その点を忘れずに考えていくのがいいのかなと思えます。

もう一つ、今お話をいろいろと聞いていて、その人その人の今の状況をきちんと把握するというのが一番大事だと思うのです。例えば、我々は歯科から、医科から、栄養士は食事から、ケアマネジャーの方はどうやってケアをするか、いろいろなところから意見を出し合って、その人一人一人に対してどういうふうなアプローチが必要なのかをクリアにしていく、結構大変だと思うのですが、それが、多分、最終的には実を結ぶのではないかなと思しますので、長い目で見てしっかりとやっていくのがいいのではないかと思います。そういう意味でも、まずは足がかりとして部会をつくるというのは非常に重要だと思います。

○三浦委員長

あわせまして、摂食嚥下を円滑にするためには健全な咀嚼が必要というところで、そこに非常に大きく関わる専門職としては歯科技工士があるかと思えます。

小野寺委員、何かご意見があったらお伺いしたいと思います。よろしく願いをいたします。

○小野寺委員

高齢者というと、大体入れ歯、デンチャーが入っているのですけれども、この入れ歯づくりでもうまい、下手がありまして、患者さんのことを分かっていないと、すごい分厚いデンチャーができていたり、前にすごく歯が出ているデンチャーができたりするのです。歯科医師や衛生士のほうから、こういう患者ですという情報をちょっとでももらえれば、こっちのほうでもできるものが大分違ってきますので、やはりコミュニケーションが大事だと思います。一つ、二つ、何かを付け加えていただければ、恐らく、大分よりよいものができてくるはずです。我々は大体模型を見てつくるしかないので、先生方と衛生士の情報がすごく大事になってきますので、協力をよろしくお願いいたします。

○三浦委員長

歯科技工指示書の必須項目以外にそういったものがあると、より質の高い歯科医療が提供でき、そして、健全な咀嚼を営み、そして、その先に摂食嚥下にも大きく寄与するのでないかというところで、貴重なご発言をいただきました。

そのほか、この案件について何かございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○三浦委員長

今、ご意見を承っていたところ、特に反対のご意見はなく、むしろ置くことの意義を支持してくださるご意見がほとんどだったと承知をしております。

そうしましたら、この推進会議の総意をもって、摂食嚥下障害対策専門部会を設置することにしたいと思います。

また、今後は部会の委員の具体的な選定等、部会の開催調整も含めて大変細かい作業になってくるかと思っておりますので、大変恐縮ですが、私、三浦と、高橋副委員長、そして、事務局に一任いただければ大変ありがたく存じますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○三浦委員長

ありがとうございます。

ご承認をいただきましたので、摂食嚥下障害対策専門部会の実施に関しましては、委員長、副委員長と事務局の間で調整をいたしまして、その結果につきましては、来年度の本会議にてご報告をさせていただきたいと思っております。

今まで大変多様な意見、そして、大変示唆に富む具体的なご意見を賜ったところでございます。

今までご検討をいただきましたほかに、議題の全体を通して、追加のご意見やご質問、確認事項をお受けしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○三浦委員長

全体を通して、大変活発なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

5. その他

○三浦委員長

次に、会議次第5のその他に移ります。

こちらにつきまして、事務局からは何かございませんか。

○事務局

事務局より、委員の皆様への委嘱期間についてのご連絡です。

委員の皆様への委嘱期間は、令和5年3月20日から令和7年3月19日までとなっております。来月には委嘱任期の満了を迎えます。

後日、事務局より、関係機関や団体様を通じて、委員の推薦を依頼する予定でございますので、あらかじめご承知おきくださいますよう、よろしくお願いいたします。

以上です。

○三浦委員長

では、これにて議事を終了させていただきます。

進行を事務局にお戻しします。

○事務局

委員長をはじめ、委員の皆様、長時間にわたり、誠にありがとうございました。

本日の議事録につきましては、まとめ次第、皆様に送付させていただき、ご確認をいただいた後、札幌市のホームページで公表させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、委員の委嘱期間が来月で満了となりますので、改めて歯科保健担当部長の秋野から、一言、お礼を申し上げます。

○秋野歯科保健担当部長

本日は、皆様からの貴重なご意見やご助言をいただきまして、本当にありがとうございました。

事務局からお話があったとおり、本当に早いと言ってしまってもいいのかもしれませんが、歯科の条例ができて、その条例に基づく計画を立ち上げるという、札幌市の歯科保健医療にとっては非常に大きな大きな節目のときに、委員の皆様方には、積極的に計画策定、また、その計画の推進にご助言をいただき、高齢者、障がい者、フッ化物洗口、成人、乳幼児といった実際の様々な事業の推進に当たっても、周知へのご協力やご理解、調整等をいただきまして、本当に委員の皆様、各団体の皆様のご協力があって何とか回っている状況かと思えます。2年間、本当にありがとうございました。引き続きご協力をお願いする委員の方も多いかと思えますので、また、ご支援やご協力をいただければと考えております。

また、今日は様々な事業をご説明させていただいたところでございますが、まだまだ改善点や修正点、変えていかなければいけない点があるかと思えます。ぜひ皆様方からのご協力をいただきながら、よりよい事業、札幌市民のためのよりよい歯科保健医療を提供させていただきたいと考えておりますので、引き続き、ご支援、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

2年間、本当にありがとうございました。

6. 閉 会

○事務局

それでは、以上をもちまして、令和6年度札幌市歯科口腔保健推進会議を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

以 上